



安全管理活動分科会（第1会場）

会場 みやこめっせ 〔京都市左京区岡崎成勝寺町9-1〕

交通 京都市営地下鉄東西線「東山駅」1番出口より徒歩8分

10月24日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

① 表面欠陥検査装置点検作業時の墜落・転落防止～直ちに施工者の安全を確保せよ～

JFEスチール(株) 東日本製鉄所 千葉地区
制御部 制御技術室

近藤 桃

表面欠陥検査装置点検作業にて、ヒヤリ災害が発生。これまでの安全化対策を施工者を交え再評価した。「若手・経験の浅い施工者でも、安全に作業できる環境が真の安全化」と痛感、若手メンバーが主体となり、アイデアを駆使し、施工者が危険と感じていた高所安全帯作業を撲滅した。

9:50

② 安全行動定着度チェック（ATC活動）で職場の安全対話を活性化

日本製鉄(株)
安全推進部 部長

朱宮 徹

職場の安全風土や個人の安全行動は、さまざまな要因で形成されていく。安全風土、安全意識をチェックリストで振り返り、結果に基づき対話を行うことにより、作業者の安全行動定着を図るとともに、管理者に対して自らの行動、言動について気付きを付与する取り組みを行った。

10:10

③ 潜在意識に訴える、安全意識向上活動

日産自動車(株) 横浜工場
第一製造部 エンジン課 課員

園田 一哉

今後持続して怪我を発生させない為に、過去の災害を層別・分析した所、起きてしまった事に対し個々に対策し、再発防止されているが、意識面での対策が不足していた。これが我々の弱みでもあると判断し、一人ひとりが安全意識を高く持って作業する為に、取り組んでいる活動を紹介する。

10:30

④ ヒヤリ・ハット活動に対する意識改革

(株)ユアテック 宮城支社
設備部 電気設備課 課長

高橋 啓

電気設備工事で発生した「ヒヤリ・ハット」事象を事業所管内に水平展開し、同様の事象から労働災害に繋がることのないように、協力会社をはじめ、各事業所の担当管理職が参加する報告会を開催し、ヒヤリ・ハットに対する意識改革と情報共有および周知徹底を図る取り組みを紹介する。

(10:50～11:00 休憩) 11:00

講演

安全管理は「ダイバーシティ」で向上する!?

(株)イー・ウーマン・(株)ユニカルインターナショナル 代表取締役社長
国際女性ビジネス会議実行委員会委員長

佐々木 かをり

政府審議会委員、上場企業取締役などを務める佐々木講師が、「ダイバーシティ」の本質と安全管理や企業の成長、また今後の働き方改革について、楽しく具体的に解説する。お聞き逃しなく！

(12:00～13:10 昼休み) 13:10



安全管理活動分科会（第1会場）

13:10

5 緊急指令 バックアップロール組替作業の「ま」を磨け！

(株)JFE ウイング

ロールショップ工場 熱延ロールショップ班 一般

橋本 雄也

ロールチョックの凹部とスレッドの凸部とのはまり具合を地下ピットに降りて確認中に転倒災害が発生。対策検討中に治工具展示会で建屋の屋根点検用LED照明付CCDカメラと出会い上記確認用に採用しフロア上で（地下ピットに降りることなく）安全に確認作業が行えるようになった。

13:30

6 工場の文化を変える安全活動

(株)UACJ 製箔 滋賀工場

総務課 主査

横山 正樹

休業災害を受けて工場の安全活動が変わっていった。トップはリーダーシップを発揮し、本質安全化に取り組み、対話型パトロールの実施、5S活動の変化など、工場の文化を変える活動であった。安全活動において人の意識を変えるには、このように文化を変えることが重要であった。

13:50

7 5つの心で改善実行 ～炉修バック作業の安全化～

愛知製鋼(株)

知多工場 第1製鋼課

松川 惟幾

弊社は電気炉メーカーで、自動車向け鋼材とステンレス鋼を生産している。電気炉の修理を行う際に発生する廃棄物は、クレーンを使用してバックでトラックへ返している。この作業は、やりにくい工程が多く、危険であった。今回専用シュートを作製し、作業の安全化を実現した。

(14:10～14:20 休憩) 14:20

特別報告

産業安全の現状と課題ー最近の労働災害発生状況と今後の行政の取組みについてー

厚生労働省 労働基準局

安全衛生部 安全課長

奥村 伸人

近年の労働災害発生状況を俯瞰するとともに、労働災害防止に向けた行政の動向・取組を説明し、事業者に取り組んでいただきたい事項を紹介する。

14:50

8 HORIBA の安全衛生管理体制 ～安全衛生で「おもしろおかしく」～

(株)堀場製作所

管理本部 総務部 副部長

富嶋 真二

当社は、2017年2月に厚生労働省より「安全衛生優良企業表彰制度」の認定を受け、関西エリアでは第1号の認定となった。2017年には3年連続で、経済産業省より「健康経営優良法人（ホワイト500）」の認定も受けている。社は「おもしろおかしく」を活用した体制を紹介する。

15:10

9 全員参加で行うリスクアセスメントKY活動とキーパーソンの育成

日照港運(株)

環境安全部 主任

小野 敬一

近年、重篤な労働災害を複数回発生させたことを猛省し、安全衛生活動の一層の強化に取り組んでいる。その中で柱となる次の2つの活動を紹介する。①社員一人ひとりの危険に対する意識を向上させるためのRA-KY活動、②安全衛生管理体制の強化に係るキーパーソンの育成。

(15:30～15:40 休憩) 15:40

10 フォークリフト事故ゼロを目指す全所あげての安全活動

三菱アルミニウム(株) 富士製作所

安全環境部 安全・衛生G 安全担当

渡邊 知樹

数年前のフォークリフト重篤災害を契機に、様々な対策でフォークリフト災害ゼロを継続している。しかし、依然としてフォークリフトによる物損事故の発生は多い。フォークリフト事故の先には災害発生の可能性が高い為、物損事故をゼロにする事が重要と考え、取り組んだ活動を紹介する。

16:00

11 手順書KYの確立 ～安全な職場の再構築に向けて～

日本製鉄(株) 広畑製鉄所

製鋼部 製鋼工場 連鑄課

堀口 大輔

職場のひとり一人の安全レベルの向上に向け、高リスク作業に着手する前に手順書を活用して危険予知を行う「手順書KY」の導入を推進した。当初は時間も要し、不安もあったが手順書の改訂、チェックリストの最適化で効果を実感でき、作業方法の統一、危険予知レベルの底上げが図れた。

16:20

12 安全活動の見直しとトップの参画による基礎の再構築

(株)JP ハイテック

安全品質環境管理本部 安全品質環境管理部長

川野 政彦

①災害防止のため、安全パトロール専門チームを組織し外部の安全専門家よりパトロールの指導を受けると共に職場の雰囲気事前に把握し、職場に潜む危険の芽にも着目した安全パトロールとした。②一人KY指差し呼称を経営トップ自ら実践したことで安全活動に大きな弾みがついた。

16:40



安全管理活動分科会（第1会場）

16:40

13 鋼管水圧試験機のサイズ替え作業における転落防止対策

大阪富士工業(株) 知多支店
生産工程部 中シ精整課 副班長

菅野 穰

鋼管水圧試験機のサイズ替え作業は、3.3mの高さの不安定な足場上で行う作業で、今まで多くの転落ヒヤリハットが報告されている危険な作業だった。この作業の転落リスクを歩行デッキ上から遠隔で調整する改善および玉掛け作業のノータッチ化改善により、撲滅することができた。

17:00

10月25日（金） プログラム（9:00開場）……………

9:30

14 ハースローラー歪測定作業見直しによるリスク低減活動

DOWA サーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
生産課 熱処理作業長

山本 裕介

熱処理設備内の製品を搬送させる為の要であるハースローラーの歪測定は重要点検作業であるが工数がかかり、リスクも高いネック作業であった。今回の活動で全10工程中、高いリスクの8工程の廃止を実現。4人で38時間の作業を1人で8時間に短縮して危険作業自体の廃止に成功した。

9:50

15 現場力を結集し30年の壁へ挑戦だ！自分たちで掴んだ鋼管吊出し作業の安全化

阿波工業(株) 知多事業所
製造1課 溶接管 Gr 中径管工場 一般

宮地 伸夫

ハッカーによる鋼管の積み込み作業において、鋼管を地切りするまでハッカーを手で押さえるという危険作業をなくすために身近にあるおもちゃをヒントにして地切りまでハッカーを固定する機構を開発し、地切り前から積み込み後までハッカーを手で触らない改善を達成した。

10:10

16 職場風土改革による安全で快適な職場づくりの実現

新日本工機(株)
総務部 業務課 係長

廣畑 佳則

工場の問題点を洗い出した。職場使命が不透明・お客様に対する使命感が低い・受動的体質から現場士気と管理が低下。この問題解決には工場ビジョンが必要となった。「世界NO1の工場」このビジョンを掲げ、達成するために改善活動を行い、職場風土改革を実現させた。

10:30

17 見守りカメラによる安全確保とルール遵守

日本製鉄(株) 君津製鉄所
薄板部 冷延工場 調質課

戸堀 健人

当職場は若手が約半数を占めており、慣れない作業やトラブル処置に不安を感じていた。今回見守りカメラを活用した一人作業の安全確認・指導を行うことで職場のリスクを低減することができた。今後は、作業の標準化や演練を進め、安全レベルを更に向上させていく。

（10:50～11:00 休憩） 11:00

講演

継続は力なり

国際フェンシング連盟 副会長
(公社)日本フェンシング協会 会長 太田 雄貴

（12:00～13:00 昼休み） 13:00

18 JFEスチール福山地区における「職場アンケート」を活用した自主自立安全活動の推進

JFEスチール(株) 西日本製鉄所(福山地区)
安全健康室 部員

福永 真由

当社福山地区では「職場アンケート」を行い、その結果を各職場が自分達の課題として受け止め、自ら解決を進める自主自立の安全活動に取り組んでいる。職場間で共通する課題については、好事例の横展開や専門チームによる課題解決に向けた取り組みを通じて、活動の活性化に繋げている。

13:20

19 リーチフォークリフトタイヤ交換時のリスク低減

コマツカスタマーサポート(株)
東北カンパニー リフト営業部 盛岡支店

堀内 恵理子

危険作業の洗い出しの結果、最もリスクの高いリーチ(立乗式)フォークリフトのタイヤ交換作業について、手動油圧シリンドラを使用した専用治具を作成し、危険な打撃作業を廃止。ジャッキアップ作業についても安全な方法を考案し、重いジャッキの積下ろしを容易にした。

13:40



安全管理活動分科会（第1会場）

13:40

20 世界一安全な職場へ！災害対策から学んだ安全活動

日産自動車(株) 横浜工場
パワートレイン生産技術部 設備システム技術グループ 工長
水原 徳行

昨年度の自職場で発生した災害の対策を振り返り、全員参加の安全活動とみんなの安全意識向上を念頭に取り組みを行った。監督者だけでなく安全推進委員会を巻き込み作業者の意見から、業務内容に合わせた幅広い視点での改善を図り、世界一安全な職場を目指した現場一体の活動である。

14:00

21 国内事業所における欧米安全基準の導入と、協力業者を巻き込んだ管理レベルの向上

MSD(株) 妻沼工場
妻沼安全環境部門 マネージャー

近藤 葵

米系外資企業である当社は前身が内資企業であった為、国内工場に米国の安全基準を導入する際に様々な課題が存在した。特に協力業者による工事や施設の維持管理は難航したが、分かりやすい教育コンテンツの開発や巡視の仕組みづくりを通じて、高いレベルの管理体制が構築できた。

(14:20～14:30 休憩) 14:30

22 秋田県玉川・八幡平地区における熊対策について

(株)ユアテック 秋田支社
工務部 土木建築課

高橋 慎

秋田県は熊の目撃・被害が多く、熊に襲われ命を落とした人もいる。そのような中で工事をしなければならず、熊に対する安全管理が最重要課題となった。対策として、施工範囲防護と工事関係者全員に、熊対策グッズを装備させた。結果、当現場では誰も熊に襲われることなく、竣工できた。

14:50

23 スリット深さ測定作業の安全化～危険な作業よサラバ～

JFE スチール(株) 東日本製鉄所 京浜地区
溶接管部・溶接管工場 一般

青木 亮太

LPLP工場では、原管きずの深さ測定を実施している。この作業はパイプを回転させる等の危険作業をとまなう。作業の本質改善のため測定治具の選定、作業方法の再検討を粘り強く行った結果、危険作業をする事なく、きず深さの測定が可能となり、生産性・良品率も向上させる事ができた。

15:10